



昨年12月の一宮市観光案内所での展示



下着姿で靴を履いている状態がドール本体(3,850円)で、ほとんどの子がピアスをしている。本体+衣装一式のスターターセット(8,800円)も

**唯一の尾州タグ
協力企業のおかげで**

尾州ドールの衣服には、尾州マークのタグが付いている。このタグは基準を満たしていると認証を得た生地や製品にのみ付いているもの。これが付いてこそ、尾州ドールというわけだが、「織維業界ではないうちは、尾州タグの取扱い非常に難しいことでした。いろんなところに尾州ドールの話を持つてきましたが、ことごとくダメでした」と広報業務を担当する春香さんは話す。そんな中で唯一、ササキセルム株式会社がせんい団地にある本社ビル1階に昨年5月にリニューアルオープンしたショッピングモール「NUNON」(以下ぬのんから)「協力しました」と嬉しい返事が届いた。

晴れて尾州ドールの肝となる衣服の布は、ぬのんが尾州タグを取得している生地から調達できることになった。「尾州ドールに使う生地の申請をぬのんさん

が、ことごとくダメでした」と広報業務を担当する春香さんは話す。そんな中で唯一、ササキセルム株式会社がせんい団地にある本社ビル1階に昨年5月にリニューアルオープンしたショッピングモール「NUNON」(以下ぬのんから)「協力しました」と嬉しい返事が届いた。

晴れて尾州ドールの肝となる衣服の布は、ぬのんが尾州タグを取得している生地から調達できることになった。「尾州ドールに使う生地の申請をぬのんさん

触れるとも、魅力が よりわかるお人形

作っている二人にとって、尾州ドールを見てももらえることが何よりも嬉しい。「みなさん、人形を見つけると『三との波長が合ったおかげですね』と泰子さんは振り返る。

尾州ドールが世にデビューしたのは、昨年11月の「第5回いちのみや楽市」。名鉄百貨店一宮店正面玄関前で行われている地元の食品・名産品・工芸品などを集めたこのイベントに、プラスガーデンも参加した。尾州ドール12体と着せ替え衣装50着を出品し、なんと尾州ドールが5体売れた。5歳の女の子用に40代の方、ゴブラン織りの洋服に着目したおしゃれなシニア女性など、幅広い世代から注目を集めた。

12月には、一宮市の観光案内所に設けられている尾州製品を紹介するショーウィンドーにも登場。多くの人が往来する駅のコンコースで、クリスマス演出の尾州ドールたちに気づき、足を止めて見入る人もいた。

尾州ドールの身長は40cmほど。ボディーの表面は木綿、中は綿。子どもが脇に抱えるのによく大きい大きさで、軽くて柔らかい。髪色は4色でヘアスタイルはいろいろ。顔も目元や口元、耳の形などが少しずつ違うので、好みの顔つきの子を選ぶのも楽しい。

そして、なんといっても尾州生地の洋服がオシャレ。着せ替え人形としては、ちょっとと大人なイメージでトレンド感がある。尾州ドールの洋服は、春香さんが選ぶのも楽しい。

尾州ドールの洋服は、春香さんが見かけた人気インフルエンサーのコーディネートなどを参考にしながら、泰子さんがデザインしている。

ボディーから下着、衣服、すべて手縫いとミシンによるオール手作り。縫い目が乱れたり、形がつったりすると、納得いくまで縫い直しをする。衣服を着た1体が仕上がるまで三日ほどかかる。丁寧な手作業によるやさしく、あたたかな魅力が、尾州ドールには溢れている。

ドールの服を作り、着せるたびに、泰子さんは「もつたいないくらい良い生地」と実感する。さすが、尾州の服で。触り心地も良く、ストレッチもきいているので、着脱がとてもしやすい。着せ替えを楽しむのも最適のようだ。

店内には尾州ドールのコーナーがあり、一部ドールハウス風のディスプレイ棚は、見ているだけでも楽しい。店内をディスプレイするのは泰子さんで、ディスプレイの什器類やモルタルの造形物などは庭園デザイナーである春香さんが制作。アーティフィシャルフラワー・ファブリック・ショップと一緒に、ここにしかない1点ものの雑貨たちが満載なお店自体も母娘協同によるものというわけだ。

尾州ドールと雑貨やフェイクグリーンをリンクさせて、部屋を飾るのも素敵♪プラスガーデンでは、手作り系のワーク・ショップをはじめ楽しいイベントも開催しているので、興味のある方はインスタグラムをチェック! 尾州ドールの新情報やイベント等の出店情報も随時アップされている。いち早くキャッチして、是非一度リアルで尾州ドールに会ってみて。思わず笑みがこぼれてくから



やさしい表情の美人さん。
初めての春夏シーズンに向けて、彼女のクローゼットはますます賑やかになります

卷頭特集①
桃の節句企画

尾州服地を纏った、着せ替え人形が出現!!

どうして誕生した、どんな人形?

制作・販売する「PLAS garden」に誕生秘話や魅力を聞いてきた。

織維の街だから生まれた 大人女子にも似合う「尾州ドール」

誕生のきっかけは ご縁、どくお札

家庭も多いだろう。ひな人形を飾る伝統的な和人形をはじめフランス人形やアンティークドール、着せ替え人形に、アーティフィシャルフラワー(造花)と雑貨のお店「PLAS garden」(以下プラスガーデン)の浅野泰子さんと高橋春香さん。一人は母娘。母親の泰子さんがドール本体と衣類を、娘の春香さんがカバンなどの装飾品を担当。母娘協同で制作にあたっている。

「私が子どもの頃、母がカントリー・ドールを作っていたことを覚えていました」と春香さん。20年以上前のことだ。「カントリー調の家具や雑貨が人気を集めていた時代です。当時、大ブームだった手作り雑貨の自宅ショップを私も開いていたほど、雑貨や人形を作つて見せることがとても大好きでした」と泰子さん。

昨年2月、プラスガーデンのショールーム兼事務所だった場所に、手渡しできる庭、をコンセプトに室内を装飾する造花やフェイクグリーン、ハンドメイド雑貨を取り揃えた「プラスガーデン」を一人でスタートした。

「開店と同時に、父がFMいのちのみの鳩山さんと知り合ったご縁で、お店の提供番組を週1で5分間、持てることになりました」と春香さん。最初はラジオ出演が苦痛だった泰子さんは「だんだん楽しくなって(笑)。鳩山さんのおかげです」と話す。因みに、今では10分間、毎週火曜12時45分から『エッジヨイライフ』『PLAS garden』が生放送されている。

もう一つ、開店と同時に始めたのが、手元にあったカントリー・ドールの販売。ちらほら売れたことで、「カントリー・ドールを土台にして、顔を鳩山さんに寄せた、鳩山ドールを作つてお世話をなつてお札にしよう」と思いつきました」と泰子さん。鳩山さんは尾州服地の熱烈なファンでもあり、その魅力を機会があるごとに広く発信し続けています。鳩山ドールを手にし「人形のお洋服を尾州生地で作つて」「尾州ドール」にしたらどうかしら? と聞いた。昨年6月のことだ。



和服姿の尾州ドールがかわいい♡



FMIのいのちのみや代表取締役の鳩山佳江さん(中央)と、右が泰子さん、左が春香さん

女子会ならぬ「尾州ドール会」
が始まりそう

PLAS garden(プラスガーデン)

所在地／一宮市萩原町富田方観音堂24番地
営業時間／10:00~16:00
定休日／火・水曜 TEL／0586-27-4703

